

GTS 2010 (GLOBAL TRAINING SCHOOL) in カンボジア王国

公益社団法人 日本青年会議所 近畿地区和歌山ブロック協議会会長 谷口 光

公益社団法人日本青年会議所近畿地区協議会主催のGTS2010(グローバル・トレーニング・スクール)は、「OMOIYARI溢れる世界へ」をテーマに、カンボジア王国のシェムリアップにて開催しました。近畿地区内の各地青年会議所より71名のメンバーが参加いたしました。今回のミッションは、GTS事業を通じて、世のため人のためという精神を醸成し、自らの行動へとつなげていく意識を芽生えさせ、その芽生えた意識をもって自らが率先してカンボジアの人々への日本の伝統的精神である「OMOIYARIの心」を伝播させることが目的であります。カンボジアでは歴史的背景もあり、十分な教育がなされず、児童労働、貧困、HIV、人身売買、地雷、性的搾取等たくさんの問題を抱えています。私たちはJCIカンボジアメンバーと協力し、NPO法人かものほしプロジェクトの視察とワーカー達との交流や小学校児童へのOMOIYARI授業を行ってまいりました。



折鶴を折る子どもたち



かものほしプロジェクト看板制作中

折鶴を折る子どもたち
かものほしプロジェクト看板制作中

折鶴を折る子どもたち
かものほしプロジェクト看板制作中

折鶴を折る子どもたち
かものほしプロジェクト看板制作中

折鶴を折る子どもたち
かものほしプロジェクト看板制作中

折鶴を折る子どもたち
かものほしプロジェクト看板制作中

OMOIYARIの樹

GTS2日目(7月1日)シェムリアップ近郊農村にあるコミュニティーファクトリー(かものほしプロジェクト)を訪ねました。この「かものほしプロジェクト」は、児童労働の中でも、最も子どもの心と体を傷つける児童労働・人身売買問題をなくすために活動しています。経済的自立を目指すためにコミュニティファクトリーという雑貨工房を作り、貧しい家庭の人たちに職業訓練をし、就業の場を提供することで、貧しさから子どもを売り渡すことを未然に防いでいます。自ら得る経験に説得力を持つために、現地に共同作

業(道路補修作業、ハンドメイド品材料収穫、看板作成など)やワーカーさん達の家庭を訪問しました。価値観の違いや現地の状況、格差の現実を目の当たりにしました。作業終了後、ワーカーさん達と共にアンコールワット遺跡の視察や夕食会で交流を深めました。交流会の後、翌日以降のOMOIYARIプログラムの打合せ準備



GTS3日目(7月2日)6時30分ホテルを出発し各グループに分かれてカンボジアの小学校(ブームトノル小学校、コバトゥル小学校)を訪ねました。カンボジアの小学校は、2部制になっていて、午前のみ登校の子どもと午後のみ登校の子どもに分かれています。午前のみ登校の子どもは朝6時くらいには学校に来ているらしいです。各家庭の事情により、家の手伝いや働きに出ているため、毎日学校に登校できない子どももいます。まずは、お互いが仲良くなるためアイスブレイクタイム。自己紹介や名前プレートを作成し、お互いの名前をニックネームで呼び合いました。心と身体の緊張をほぐす表現遊び(にらめっこ)をしました。子どもたちの順応性もよく積極的に参加してくれました。互いの緊張もほぐれたところでOMOIYARIプログラムI(おむすびころりん)の伝統的な思いやりを描いた絵本(おむすびころりん)を、子どもたちにクメール語で読み聞かせを行いました。識字率の低いカンボジアで通じない言葉を使ってOMOIYARIを伝えるのは大変困難でした。言葉を通じないところを補うために紙人形劇をしながら読み聞かせしました。私たちの前日深夜までの練習と子どもたちも真剣に聞いてくれたお陰で、下手なクメール語でも何とか子どもたちに話を伝えることができました。絵本の登場人物や感想を子どもたちから聞きました。この話に出てくるような優しいおじいさんになりたいと言った子どもが沢山いました。私たちが伝えようとし

ているOMOIYARIの心が少しカンボジアの子どもたちに伝わったと思います。続いてOMOIYARI IプログラムII(夏の夏休み、日本青年会議所作成の映画「夏の夏休み」をクメール語に吹き替え作成した子どもたちに鑑賞してもらいました。この映画は、次世代を担う子どもたちに、日本人が古来より大切に、培ってきた豊かな精神性、倫理道徳や価値観を学ぶ機会の提供となっております。映画鑑賞後、ワークシートを用いて、主人公だけではなく様々な登場人物の気持ちになって考えて頂きました。質問に対して子どもたちも積極的に手を挙げてくれて、子どもたちの感想を聞き、私たちがこのプログラムを通じて「先人への感謝の心」もつけないの精神「OMOIYARIの心」自然を慈しむ心」を導きたせたいと思えます。続いてOMOIYARIプログラムIII(OMOIYARIの樹、大羊羹、折鶴、歯磨き)です。私たちがグループは、歯磨きの習慣が一般化していないカンボジアの子どもたちに、歯磨きの仕方を実演し、次に子どもたちに実際に歯磨きを行ってもらいました。次に、OMOIYARIの鶴を折る子どももあり、初めての折り紙を折る子どもも折鶴を完成させることができました。子どもたちの理解力も早く2羽目、3羽目と自分たちで楽しそうに鶴を折っていました。最後にOMOIYARIの樹について学校の壁面に樹木を描き、葉っぱの部分子どもたちがペンキの手形で完成させてもら

いました。今回の私たちがどの経験が形として残り、子どもたちはその樹を見るたびにOMOIYARIの精神を思い起こしてくれればと思っています。休憩時間には、みんなで大縄跳びに挑戦しました。中々飛べなかった子どもたちも上手に取れるようになり、飛べるようになっていきました。カンボジアの子どもたちは、順応性もよく素直で何事にも一生懸命であり、OMOIYARIを伝えに行ってきた私たちが、逆に子どもたちから多くのことを学びました。盛り沢山の1日の締め括りは、OMOIYARI&PEACEの集いコンサートです。カンボジアの市民を集め、JCIカンボジアが1万人規模ともいわれる野外ライブ(フーロホクソク特設会場)を開催しました。この平和の集いにて私たち日本青年会議所近畿地区協議会は、カンボジア・シェムリアップの各小学校に対して歯ブラシ15000本を寄付しました。また、カンボジアの有名歌手やシェムリアップの市長も参加して下さり、平和の集いコンサートに花を添えて頂きました。子どもたちの合唱や踊り、日本の伝統文化の和太鼓演奏などを行いました。最後に、私たちGTS一行とJCIカンボジア及子どもたちで舞台上がり、「WORLD ARE THE WORLD」を大合唱しました。会場内の1万人ともいわれる一般市民の方々も大合唱で、世界はひとつになれた瞬間だと感じました。



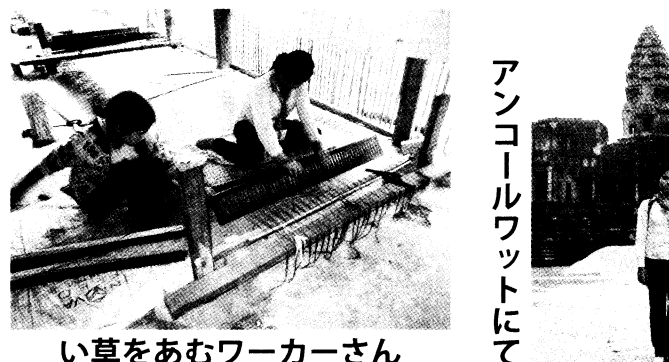
間もあつた看板の前で記念撮影(近畿地区協議会役員)



道路補修作業



間もあつた看板の前で記念撮影(近畿地区協議会役員)



アンコールワットにて



い草をあむワーカーさん



歯みがきを練習する子どもたち

GTS4日目(7月3日)OMOIYARIプログラムIV(夢を語る、写真交換)JCIメンバー一人につき8、10名の子どもを受け持りました。子どもたちに将来の夢について語って頂いたり、お互いの写真やメッセージの交換を行いました。言葉はわからなくてもお互いにOMOIYARIを学んだ思い出を共有できたと思います。小学校で子どもたちと過ごした楽しい時

間もあつたという間に過ぎお別れの時がやってきました。最後に手を振りながら私の名前を何度も何度も叫んでいる子ども、私も手を振りながら子どもたちの名前を叫んでいました。みんな涙が溢れんばかりの状況でした。目を閉じると今でもそのシーンが浮かび目頭が熱くなります。私たち自身が子どもたちから教わったことが多くありました。カンボジアの子どもたちとの思い出は、私の人生の中で大切な宝物となった気がします。そして、解散式にて、お互いが合いました。私たちがOMOIYARIをカンボジアに伝えたが、カンボジアに来て本当の意味でのOMOIYARIを学びました。OMOIYARIは、ただの言葉遊びになってはならない。口ではOMOIYARIと簡単に言えるが、それが相手に伝わっているかはわからない。相互理解があつてはじめてOMOIYARIが伝わるものだと思えて感じさせられました。今回、参加全員が全てのプログラムに真剣に取り組んだことで、カンボジアに小さなねりを起こすことができたと思います。その小さなねりをJCIカンボジアのメンバー、かものほしプロジェクト、そしてブームトノル小学校、コバトゥル小学校が、さらに大きなねりに変えて、カンボジアという国を、OMOIYARIの心が溢れる国へ導いていくことを願っています。